

フクタニュース

発行



(株)フクタ

碎石部

恒例 県道掃除

今年も恒例の道路清掃をしました。道路脇にはたくさんの泥が溜まって清掃をしなければと思いつつ・・・。



日頃地元の皆さんにお詫びの気持ちを込めながらほぼ一日がかりで清掃に励みました。ご迷惑をおかけして本当に申し訳ありません。



Thank you 39

弊社は、4月17日創立39年を迎えることが出来ました。これもひとえにお客様や地域の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

本年度は社内、社外とも大きな転機となるのではないかと思います。転機の中でも自分たちのあるべき姿を見失うことなく、これからも地域の皆様と共に歩んでいきたいと思ひます。

この一年は 『Thank you 39』の年となるよう社員一同がんばります。



100 ?!

なにげに事務所のカレンダーを見ていたら、2011年、平成23年、昭和86年、そして隅っこに大正100年と書いてあった。大正はすでに100年前になっているのだ。

ちなみに、中災防の平成23年年間標語は『安全専一から100年 未来へつなごう安全の心』となっており、安全意識が芽生え、組織的に産業安全運動が始まってから100年の節目でもある。設備や機械、職場環境は当時から格段に進歩している。にもかかわらず事故が無くならないのはなぜだろう。

今こそ安全のありがたさを再認識し『安全第一』を肝に銘じたいものである。



産業安全運動100年記念事業実行委員会H・P 『思わず微笑む懐かしのポスター』より



特別編 ～震災後に想う～

子供の頃、言うことをきかずダダをこねていると『あもこあくぞ』と言われた。あもこの実像を思い描くことはできないのだが、形もなく正体不明のものには本能的に恐怖を感じていた。

今回の大震災は被害の状況や復旧活動等映像として十分な形が見えているのだが、なぜだか『あもこ』に思えてしまう。それは実像として現れること自体が論理の範囲を超えてしまっており、経験したことの無い事態に対して、適切な判断や対応ができないことによるのだろう。

漠然とした不安がもたらすものは、焦燥や混乱と停滞であろう。

しかし、『あもこ』も正体さえわかれば怖れることはない。それは誰かがもたらすものでなく、自分の中にあるものだから。



こだわり

昨年タバコの値上げ以降、愛煙家は社会的にも経済的にも肩身が狭い。それに加えて震災の影響で国産タバコはほとんど姿を消した。

いつもの銘柄がなく、煙さえ出れば何でも良いという人もいれば、お好みを探して四方八方歩き回る人もいる。しかし、逆に考えると日本はなんと選択技の多い国だったのかと思わざるを得ない。

日常何気なく選んでいる商品には、類似品や派生品、関連品が数多く出回っている。普段は意識しない物がなくなって初めて自分のこだわりに気が付く。

それくらい日本には物が満ち溢れていたのだと実感する。



おびたしい数のタバコの銘柄

もっと光を



新聞を見る時、目を離してみるようになった。保険の約款などは尚更である。精読してほしくない文章は小さな字で書けばいいのだ。と保険屋さんの戦術に感心したりする。ましてや暗いと読む気さえおこらない。

目から情報収集ができないと頭もうつろな状態で、ぼんやりしている自分にはたと気づくことがある。

そこで電気スタンドを買った。明るい💡俄然やる気が出て仕事もはかどる？

ふと、昔こんな言葉があったことを思い出す。『暗いと不平を言うよりも進んで灯りをつけましょう。』



編集後記

先月はフクタニュースはお休みさせていただきました。ようやく迎りのお店の営業時間や夜の照明などが前に戻りますね・・・フクタニュースも今月は発行することになりました。今後どんな時も皆さんとのつながりを大切にしていきたいと思ひます。